

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
ICLS とは (https://www.icls-web.com/about/icls_about.html)		
<p>ICLS コースとは</p> <p>医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。緊急性の高い病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の 10 分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としています。講義はほとんど行わず、実技実習を中心としたコースです。</p> <p>ICLS コースの内容</p> <p>コースの行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 心停止時の 4 つの心電図波形を 評価・判断 できる ● 電気ショック の適応を判断できる ● 電気ショックを安全かつ確実に 行う ことができる ● 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を 行うこと ができる <p>ICLS コースの対象</p> <p>一般の方は、BLS (一次救命処置) の講習会をぜひ受講し、心肺蘇生法（胸骨圧迫と人工呼吸）や AED（自動体外式除細動器）の使用方法を身につけて下さい。BLS (一次救命処置) の講習会については、お近くの消防署、日本赤十字社、救急指定病院等にお問い合わせ下さい。</p>	<p>ICLS コースとは</p> <p>医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。緊急性の高い病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の 10 分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としています。講義室での講義はほとんど行わず、実技実習を中心としたコースです。</p> <p>ICLS コースの内容</p> <p>コースの行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 心停止時の 4 つの心電図波形を 診断 できる ● 除細動 の適応を判断できる ● 電気ショックを安全かつ確実に 行な うことができる ● 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を 行動に できる <p>ICLS コースの対象</p> <p>一般の方は、一次救命処置 の講習会をぜひ受講し、心肺蘇生法（胸骨圧迫と人工呼吸）や AED（自動体外式除細動器）の使用方法を身につけて下さい。一次救命処置 の講習会については、お近くの消防署、日本赤十字社、救急指定病院等にお問い合わせ下さい。</p>	<p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>
ICLS コースの概要 (https://www.icls-web.com/course/course_outline.html)		
<p>ICLS コース</p> <p>医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病</p>	<p>ICLS コース</p> <p>医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病</p>	

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p>態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としています。講義はほとんど行わず、実技実習を中心としたコースです。</p> <p>■コースの一般目標</p> <p>■コースの行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電気ショックを安全かつ確実に行うことができる ● 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を<u>行う</u>ことができる <p>ICLS コースの認定基準</p> <p>8. インストラクター総数は受講者数の1.5倍を上限とする。 (受講者数5名の場合 5名×1.5倍=7.5名(算出結果が端数の場合は、切上げの為、8名)までと<u>する</u>)</p> <p>コースで学習する具体的な内容 <u>※OP: オプション</u></p>	<p>態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標としています。<u>講義室での</u>講義はほとんど行わず、実技実習を中心としたコースです。</p> <p>■<u>1</u>コースの一般目標</p> <p>■<u>2</u>コースの行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電気ショックを安全かつ確実に<u>行な</u>うことができる ● 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を<u>行動に移す</u>ことができる <p>ICLS コースの認定基準</p> <p>8. インストラクター総数は受講者数の1.5倍を上限とする。 (受講者数5名の場合 5名×1.5倍=7.5名(算出結果が端数の場合は、切上げの為、8名)までと<u>して下さい</u>)</p> <p>コースで学習する具体的な内容</p>	<p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(追加)</p>
<p>ICLS コース 認定手順 (https://www.icls-web.com/course/course_follow.html)</p>		
<p>1 <u>ICLS</u> コースの開催を立案</p> <p>2 <u>コースの認定</u>要件を満たしていることを確認 (→認定要件はこちら)</p> <p>3 コース認定申請</p>	<p>1 <u>認定</u> コースの開催を立案</p> <p>2 <u>認定コース</u>要件を満たしていることを確認 (→認定要件はこちら)</p> <p>3 コース認定申請</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p>申請した認定ディレクターに、システムから申請受付メールが自動送信される。申請受付メールには「コース受付番号」が記載されており、以後問い合わせ時には「コース受付番号」を用いる。</p> <p>※コース認定の許可が下りてから「認定コースである」ことを宣伝することが望ましい。参加インストラクターの確定と受講者募集との間に時間がない場合は「コース認定申請中である」ことを宣伝してもよいが、不認定の際の責任は<u>日本救急医学会および日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会</u>には一切ない。</p>	<p>申請した認定ディレクターと<u>日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会の地区担当委員</u>に、システムから申請受付メールが自動送信される。申請受付メールには「コース受付番号」が記載されており、以後問い合わせ時には「コース受付番号」を用いる。</p> <p>※コース認定の許可が下りてから「認定コースである」ことを宣伝することが望ましい。参加インストラクターの確定と受講者募集との間に時間がない場合は「コース認定申請中である」ことを宣伝してもよいが、不認定の際の責任は<u>当学会、当委員会</u>には一切ない。</p>	(削除)
<p>4 <u>申請内容の確認・審査とコース認定の可否の決定</u></p>	<p>4 <u>日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会地区委員はシステムより申請メールを受信したら、システムにて申請内容を確認、審査し、コース認定の可否の決定をコースディレクターへ連絡する。</u></p>	(変更)
<p><u>ICLS 地区担当委員</u>は、システムにログインして申請内容を確認・審査し、コース認定の可否の決定を行う。システム上でコース認定の可否を入力すると、システムから認定結果メールが<u>申請ディレクター</u>に自動送信される。</p>	<p><u>日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会の地区担当委員</u>は、<u>申請受付メールを受信したら</u>、システムにログインして申請内容を確認・審査し、コース認定の可否の決定を行う。システム上でコース認定の可否を入力すると、システムから認定結果メールが自動送信される。</p>	(変更・削除)
<p>6 コース結果報告</p> <p>コースディレクターは、<u>コース開催日から必ず2週間以内</u>に、システム上でコース結果、指導者、受講者の報告をする。</p> <p>指導者として登録を行うのは実際に受講者の指導にあたったスタッフのみとし、<u>インストラクター総数は受講者数の1.5倍を上限</u>とする。</p>	<p>6 コース結果報告</p> <p><u>認定</u>コースディレクターは、<u>コース終了後速やかに(2週間以内)</u>、システム上でコース結果、指導者、受講者の報告をする。</p> <p>指導者として登録を行うのは実際に受講者の指導にあたったスタッフのみとし、<u>概ね受講者数を超えない程度</u>とする。</p>	(追加)
<p>※2022年4月1日以降、開催日から2週間経過すると、結果入力画</p>		(削除・変更)
		(変更)
		(追加)

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<u>面がフリーズされ、結果入力および受講者と指導者の入力やアップロードが行えなくなりました。</u>		
ICLS コース FAQ (https://www.icls-web.com/course/course_faq.html)		
<p>インストラクター・コースディレクターについて</p> <p>Q1：コースディレクターがインストラクターを兼ねてコース内で指導することは認められますか？</p> <p>コースディレクターがインストラクターを兼ねてコース内で指導する際、判断に迷う場合には地区委員に相談して下さい。</p> <p>Q4：医療系校の学生はコースに参加しても実績にならないのでしょうか？また、認定インストラクター資格取得は可能ですか？</p> <p>コースへの参加は実績になります。しかし、アシスタント・インストラクターとしての指導歴のみとなります。インストラクター認定申請は、国家資格を取得後の医療従事者であることが条件のひとつとなります。</p>	<p>インストラクター・コースディレクターについて</p> <p>Q1：コースディレクター<u>及びサブコースディレクター</u>がインストラクターを兼ねてコース内で指導することは認められますか？</p> <p>コースディレクター<u>及びサブコースディレクター</u>がインストラクターを兼ねてコース内で指導する際、判断に迷う場合には地区委員に相談して下さい。</p> <p>Q4：医療系校の学生はコースに参加しても実績にならないのでしょうか？また、認定インストラクター、<u>ディレクター</u>資格取得は可能ですか？</p> <p>コースへの参加は実績になります。しかし、アシスタント・インストラクターとしての指導歴のみとなります。インストラクター<u>やディレクター</u>の認定申請は、国家資格を取得後の医療従事者であることが条件のひとつとなります。</p>	<p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p>
BLS コース コースの概要 (https://www.icls-web.com/bls/outline.html)		
	<p><u>序文</u></p> <p><u>現在、心肺蘇生の講習会として医療従事者向けの公式コースはAHA（アメリカ心臓病協会）のコースがあるものの、[日本版ガイドライン]＝JRC（日本蘇生協議会）の内容に準じた内容のコースはありません。医療従事者はその専門的知識は現場実践の経験を基としたコースで学ぶ</u></p>	(削除)

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p><u>BLS コース</u></p> <p>JRC（日本蘇生協議会）のガイドラインに準拠した、医療従事者のためのBLS（一次救命処置）のトレーニングコースです。日本救急医学会認定コースとして開催することで、BLS教育の普及・啓発を促進することを目的としています。また、ICLSコースの前段階として受講することで、ICLSコース受講者の増加や教育の質の向上、時間短縮につながります。講義はほとんど行わず、実技実習を中心としたコースです。日本救急医学会では、一定の基準を満たしたコースに対して「コース認定」を行っています。日本救急医学会認定BLSコースは、ICLS認定デ</p>	<p><u>ことは効果的だと考えますし医療安全の見地からもBLS講習会の受講が必要だと思われます。</u></p> <p><u>そのような背景に加えて日本救急医学会ICLSコース企画運営委員会では以下の目的にてBLSコースを開発しました。</u></p> <p>① <u>「日本版ガイドライン」の内容でのBLSの講習会に対して日本救急医学会にて認定を行うことにより正確な内容のBLS講習会を広め臨床および教育に寄与する。</u></p> <p>② <u>「日本救急医学会認定BLSコース」をICLSの前段階コースと扱う事を可能とすることにより、ICLSコースの受講者の増加およびコース開催での質の向上および時間短縮につなげる。</u></p> <p><u>日本救急医学会BLSコースは、ICLSコース同様、ICLS認定ディレクターはコース申請が可能です。</u></p> <p><u>またICLS認定インストラクターがBLS認定インストラクターとして指導加藤となります。</u></p> <p><u>多くの方に受講・指導していただき今後の心肺蘇生の普及に御活用いただけますように何卒お願い申し上げます。</u></p> <p><u>BLS コース</u></p> <p><u>医療従事者のための、BLS（Basic Life Support）コースです。</u></p> <p><u>気道異物の除去やAED（自動体外式除細動器）での除細動を学ぶことが可能です。</u></p> <p><u>講義室での講義はほとんど行わず、実技実習を中心としたコースです。</u></p> <p><u>受講者は少人数のグループに分かれ、実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身に付けます。</u></p>	<p>(変更)</p>

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p><u>ィレクターがコース申請をすることができます。また、ICLS 認定インストラクターがコースで指導を行うことができます。</u></p> <p>■コースの一般目標</p> <p><u>突然の心肺停止や窒息に対する BLS（一次救命処置）を習得する。</u></p> <p>■コースの行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>傷病者の急変を早期に認知し、直ちに蘇生行動を始めることができる</u> ● <u>質の高い胸骨圧迫と人工呼吸を行うことができる</u> ● <u>AED（自動体外式除細動器）を正しく安全に使用できる</u> ● <u>BLS（一次救命処置）アルゴリズムを理解し、チームで実践することができる</u> ● <u>異物による気道閉塞に対する対応を実践できる</u> 		
<p>BLS コース 認定手順 (https://www.icls-web.com/bls/follow.html)</p>		
<p>1 <u>BLS</u> コースの開催を立案</p> <p>2 <u>コースの認定</u>要件を満たしていることを確認（→認定要件はこちら）</p> <p>5 コース結果報告</p> <p>認定コースディレクターは、<u>コース開催日から必ず 2 週間以内に</u>システム上でコース結果、指導者、受講者の報告をする。指導者として登録を行うのは実際に受講者の指導にあたったスタッフのみとし、<u>インストラクター総数は受講者の 1.5 倍を上限と</u>する。コース結果についてはコース結果入力画面に直接入力し、指導者リスト、受講者リストについては入力画面で直接入力するかファイルをアップロードする。</p>	<p>1 <u>認定</u>コースの開催を立案</p> <p>2 <u>認定コース</u>要件を満たしていることを確認（→認定要件はこちら）</p> <p>5 コース結果報告</p> <p>認定コースディレクターは、<u>コース終了後速やかに（2 週間以内）、</u>システム上でコース結果、指導者、受講者の報告をする。指導者として登録を行うのは実際に受講者の指導にあたったスタッフのみとし、<u>概ね受講者数を超えない程度と</u>する。コース結果についてはコース結果入力画面に直接入力し、指導者リスト、受講者リストについては入力画面で直接入力するかファイルをアップロードする。</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
※2022年4月1日以降、開催日から2週間経過すると、結果入力画面がフリーズされ、結果入力および受講者と指導者の入力やアップロードが行えなくなりました。		(追加)
指導者養成ワークショップ ワークショップ概要 (https://www.icls-web.com/workshop/workshop_outline.html)		
ICLS 指導者養成ワークショップ認定条件	ICLS 指導者養成ワークショップ認定条件	
6. 各ブースに1名以上の <u>認定ワークショップインストラクター</u> がいること。	6. 各ブースに1名以上の <u>ICLS 指導者養成ワークショップ認定インストラクター (以下、WS 認定インストラクター)</u> がいること。	(変更)
指導者養成ワークショップ 認定手順 (https://www.icls-web.com/workshop/workshop_process.html)		
1 <u>指導者養成</u> ワークショップの開催を立案	1 <u>認定</u> ワークショップの開催を立案	(変更)
3 ワークショップ開催認定申請	3 ワークショップ開催認定申請	
申請した認定ワークショップディレクターに、システムから申請受付メールが自動送信される。申請受付メールには「受付番号」が記載されており、以後問い合わせ時には「受付番号」を用いる。	申請した認定ワークショップディレクターと <u>日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会の地区担当委員</u> に、システムから申請受付メールが自動送信される。申請受付メールには「受付番号」が記載されており、以後問い合わせ時には「受付番号」を用いる。	(削除)
※ワークショップ認定の許可が下りてから「認定ワークショップである」ことを宣伝することが望ましい。参加指導者の確定と受講者募集との間に時間がない場合は「ワークショップ認定申請中である」ことを宣伝してもよいが、不認定の際の責任は <u>日本救急医学会および日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会</u> には一切ない。	※ワークショップ認定の許可が下りてから「認定ワークショップである」ことを宣伝することが望ましい。参加指導者の確定と受講者募集との間に時間がない場合は「ワークショップ認定申請中である」ことを宣伝してもよいが、不認定の際の責任は <u>当学会、当委員会</u> には一切ない。	(変更)
4 <u>申請内容の確認・審査とワークショップ認定の可否の決定</u>	4 <u>日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会地区委員はシステムより申請メールを受信したら、システムにて申請内容を確認、審査し、ワークショップ認定の可否の決定を開催ディレクターへ連絡する。</u>	(変更)

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p><u>ICLS 地区担当委員</u>は、システムにログインして申請内容を確認・審査し、ワークショップ認定の可否の決定を行う。</p> <p>システム上でワークショップ認定の可否を入力すると、システムから認定結果メールが<u>申請ディレクター</u>に自動送信される。</p> <p>6 ワークショップ結果報告</p> <p>開催ディレクターは、<u>ワークショップ開催日から必ず2週間以内に</u>、システム上で開催結果、指導者、受講者の報告をする。</p> <p>指導者として登録を行うのは実際に受講者の指導にあたったスタッフのみとし、<u>インストラクター総数は受講者数の1.5倍を上限</u>とする。</p> <p><u>※2022年4月1日以降、開催日から2週間経過すると、結果入力画面がフリーズされ、結果入力および受講者と指導者の入力やアップロードが行えなくなりました。</u></p>	<p><u>日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会の地区担当委員</u>は、<u>申請受付メールを受信したら</u>、システムにログインして申請内容を確認・審査し、ワークショップ認定の可否の決定を行う。</p> <p>システム上でワークショップ認定の可否を入力すると、システムから認定結果メールが自動送信される。</p> <p>6 ワークショップ結果報告</p> <p>開催ディレクターは、<u>ワークショップ終了後速やかに(2週間以内)</u>、システム上で開催結果、指導者、受講者の報告をする。</p> <p>指導者として登録を行うのは実際に受講者の指導にあたったスタッフのみとし、<u>概ね受講者数を超えない程度</u>とする。</p>	<p>(変更・削除)</p> <p>(追加)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(追加)</p>
<p>指導者養成ワークショップ FAQ (http://www.icls-web.com/workshop/workshop_faq.html)</p>		
<p>自施設での開催について</p> <p>Q1：認定ワークショップを自施設で開催したいのですが、認定を受ける方法が分かりません。</p> <p>自施設に<u>認定WSディレクター</u>がいる場合は、その方にご相談ください。自施設に<u>認定WSディレクター</u>がない場合は、施設外の<u>認定WSディレクター</u>に開催をお願いする必要があります。</p> <p>地域の<u>認定WSディレクター</u>に関しては、各地区担当委員までお問い合わせください。</p>	<p>自施設での開催について</p> <p>Q1：認定ワークショップを自施設で開催したいのですが、認定を受ける方法が分かりません。</p> <p>自施設に<u>WS認定ディレクター</u>がいる場合は、その方にご相談ください。自施設に<u>WS認定ディレクター</u>がない場合は、施設外の<u>WS認定ディレクター</u>に開催をお願いする必要があります。</p> <p>地域の<u>WS認定ディレクター</u>に関しては、各地区担当委員までお問い合わせください。</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更・変更)</p> <p>(変更)</p>

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p>または、ICLS 認定インストラクターの方は、ログイン後に<u>認定 WS ディレクター</u>リストを閲覧できるので、個人で依頼することもできます。</p> <p>インストラクター・ディレクターについて</p> <p>Q1：<u>認定 WS ディレクター</u>がインストラクターを兼ねてブースで指導することは認められますか？</p> <p>Q2：<u>認定 WS インストラクター</u>にはどうすればなれますか？</p> <p>2020年3月2日よりICLS 指導者養成 <u>WS インストラクター</u>資格が制度化されております。2ブース以上で開催する際は、各ブースに少なくとも1名の<u>認定 WS インストラクター</u>が必要です。<u>認定 WS インストラクター</u>については、「ワークショップインストラクター」の項目をご参照ください。</p> <p>Q3：<u>認定 WS ディレクター</u>にはどうすればなれますか？</p> <p>・WS ディレクター見習いとして十分な開催経験がある者は、2名の<u>認定 WS ディレクター</u>からの推薦により、WS ディレクターの認定申請ができる。</p> <p>その他</p> <p>Q1：スタッフ参加実績証を作成していますが、何種類作ればいいでしょうか？</p>	<p>または、ICLS 認定インストラクターの方は、ログイン後に <u>WS 認定ディレクター</u>リストを閲覧できるので、個人で依頼することもできます。</p> <p>インストラクター・ディレクターについて</p> <p>Q1：<u>WS 認定ディレクター</u>がインストラクターを兼ねてブースで指導することは認められますか？</p> <p>Q2：<u>WS 認定インストラクター</u>にはどうすればなれますか？</p> <p>2020年3月2日よりICLS 指導者養成 <u>WS 認定インストラクター</u>資格が制度化されております。2ブース以上で開催する際は、各ブースに少なくとも1名の <u>WS 認定インストラクター</u>が必要です。<u>WS 認定インストラクター</u>については、「ワークショップインストラクター」の項目をご参照ください。</p> <p>Q3：<u>WS 認定ディレクター</u>にはどうすればなれますか？</p> <p>・WS ディレクター見習いとして十分な開催経験がある者は、2名の <u>WS 認定ディレクター</u>からの推薦により、WS ディレクターの認定申請ができる。</p> <p>その他</p> <p>Q1：スタッフ参加実績証を作成していますが、何種類作ればいいでしょうか？</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更・変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p>スタッフ参加実績証は、WS ディレクター実績証、WS ディレクター見習い実績証、WS インストラクター実績証、WS アシスタントインストラクター実績証、タスクフォース感謝状の5種類を発効することが出来ます。</p>	<p>スタッフ参加実績証は、WS <u>認定</u>ディレクター実績証、WS ディレクター見習い実績証、WS <u>認定</u>インストラクター実績証、WS アシスタントインストラクター実績証、タスクフォース感謝状の5種類を発効することが出来ます。</p>	<p>(削除) (削除)</p>
<p>インストラクター 認定手順 (http://www.icls-web.com/inst/inst_follow.html)</p>		
<p>条件確認</p> <p>2) <u>日本救急医学会認定のICLS 指導者養成ワークショップ</u>に参加し、指導法を身に付けた者</p> <p>認定申請</p> <p>申請者に、システムから申請受付メールが自動送信される。</p> <p>認定可否決定後、システムから認定結果メールが<u>申請者に</u>自動送信される。</p>	<p>条件確認</p> <p>2) <u>ICLS 認定番号が付与されている指導者コース（日本救急医学会認定のICLS 指導者養成ワークショップ等）</u>に参加し、指導法を身に付けた者</p> <p>認定申請</p> <p>申請者と<u>日本救急医学会ICLS コースの地区担当委員</u>に、システムから申請受付メールが自動送信される。</p> <p>認定可否決定後、システムから認定結果メールが自動送信される。</p>	<p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(追加)</p>
<p>インストラクター申請から認定まで (http://www.icls-web.com/inst/inst_flow_window.html) →「<u>申請～認定の流れ</u>」としてサイドバーに追加</p>		
<p>ICLS コースのインストラクター指導経験及び指導者養成ワークショップ受講</p> <p>【指導者養成ワークショップ受講】 <u>日本救急医学会認定ICLS 指導者養成ワークショップ</u></p>	<p>ICLS コースのインストラクター指導経験及び指導者養成ワークショップ受講</p> <p>【指導者養成ワークショップ受講】 <u>日本救急医学会認定指導者養成ワークショップ、またはそれに準ずるコースも可</u> <u>例：日本循環器学会のインストラクターコース、</u></p>	<p>(変更)</p>

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p><u>不認定</u></p> <p><u>申請不備</u></p>	<p><u>AHA (ACLS、BLS、その他)、ISLS、PSLS、JPTEC、ITLS、JATEC、日本内科学会</u></p> <p><u>※2020年9月1日申請分より日本救急医学会認定指導者養成ワークショップ以外のコースの代替不可</u></p> <p><u>却下・不認定</u></p> <p><u>不備・保留</u></p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p>
<p>インストラクター認定申請 (https://www.icls-web.com/icls/InstructorApp.do)</p>		
<p>インストラクター</p> <p>2) <u>日本救急医学会認定のICLS指導者養成ワークショップ</u>に参加し、指導法を身に付けた者</p> <p>3) 指導者としてコースに参加後、コースディレクターからの推薦をもらえる者。(申請時に必要なコースディレクター認定番号が必要となるため確認をすること)</p> <p><u>※</u> なお、1コース内にて基準1)の内容(「BLS」「モニター」「気道管理」)を全て指導したとしても、指導経験としては、いずれかを1回とする。</p>	<p>インストラクター</p> <p>2) <u>ICLS認定番号が付与されている指導者コース(日本救急医学会認定のICLS指導者養成ワークショップ等)</u>に参加し、指導法を身に付けた者</p> <p>3) 指導者としてコースに参加後、コースディレクターからの推薦をもらえる者。(申請時に必要なコースディレクター認定番号が必要となるため確認をすること) <u>※</u> なお、1コース内にて基準1)の内容(「BLS」「モニター」「気道管理」)を全て指導したとしても、指導経験としては、いずれかを1回とする。</p>	<p>(変更)</p> <p>(改行)</p>
<p>インストラクター FAQ (http://www.icls-web.com/inst/inst_faq.html)</p>		
<p>Q1：医師以外も認定インストラクターになれますか？</p> <p><u>国家資格のある医療職であれば</u>インストラクター認定を受けられます。</p> <p>Q13：インストラクターに登録された場合、登録料などはかかるのか</p>	<p>Q1：医師以外も認定インストラクターになれますか？</p> <p><u>医療に携わる全ての方が</u>インストラクター認定を受けられます。</p> <p>Q13：インストラクターに登録された場合、登録料などはかかるのか</p>	<p>(変更)</p>

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p>ただし、<u>2021年10月1日</u>以降に認定更新するインストラクターについては、認定更新料（<u>2,000円（税別）</u>）が必要です。</p> <p>Q16：インストラクター申請したく、指導者養成ワークショップの公募を探しているのですが、公募がなく、受講ができません。他に代替できるコースはあるのでしょうか</p> <p><u>2020年9月1日以降、当学会認定指導者養成 WS 以外の代替コースは認められなくなりました。受講できる ICLS 指導者養成ワークショップが見つからない場合は地区担当委員にご相談ください。</u></p> <p>Q20：すでにインストラクター、ディレクター資格をもっている人の場合、更新において何をしたらいいでしょうか</p> <p>②<u>2021年10月1日</u>以降に認定更新するインストラクター（ディレクターを含む）については、上記に加えて認定更新料（<u>2,000円（税別）</u>）が必要です。</p>	<p>ただし、<u>2019年4月1日</u>以降に認定更新するインストラクターについては、認定更新料（<u>2,200円（税込）</u>）が必要です。</p> <p>Q16：インストラクター申請したく、指導者養成ワークショップの公募を探しているのですが、公募がなく、受講ができません。他に代替できるコースはあるのでしょうか</p> <p><u>現在、指導者養成ワークショップの代替コースとして以下のコースも認められています。</u></p> <p><u>例：日本循環器学会、AHA（ACLS、BLS、その他）、ISLS、PSLS、JPTEC、ITLS、JATEC、JMECC等のインストラクターコース</u></p> <p><u>指導者養成ワークショップ以外のインストラクターコースの受講歴を用いる場合は受講証明書が必要です。</u></p> <p><u>※2020年9月1日以降に申請される場合、当学会認定指導者養成 WS 以外の代替コースは認められなくなります。</u></p> <p>Q20：すでにインストラクター、ディレクター資格をもっている人の場合、更新において何をしたらいいでしょうか</p> <p>③ <u>2021年10月1日</u>以降に認定更新するインストラクター（ディレクターを含む）については、上記に加えて認定更新料（<u>2,000円（税別）</u>）が必要です。</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>
<p>コースディレクター 認定手順 (http://www.icls-web.com/direct/direct_follow.html)</p>		
<p>ICLS コースディレクター見習い/ICLS コースディレクターの要件 ICLS コースディレクター</p>	<p>ICLS コースディレクター見習い/ICLS コースディレクターの要件 ICLS コースディレクター</p>	

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p>2) <u>2名以上のICLSコースディレクターからの推薦</u>がある。</p> <p>ICLSコースディレクター認定申請の流れ</p> <p>2) 推薦者に、システムから申請受付メールが送信される。</p> <p>3) 認定可否決定後、システムから認定結果メールが<u>推薦者と被推薦者</u>に送信される。</p>	<p>2) 「<u>2名以上のICLSコースディレクターからの推薦</u>」又は「<u>日本救急医学会ICLSコース企画運営委員会委員からの推薦</u>」がある。</p> <p>ICLSコースディレクター認定申請の流れ</p> <p>2) 推薦者と<u>日本救急医学会ICLSコース企画運営委員会の地区担当委員</u>に、システムから申請受付メールが送信される。</p> <p>3) 認定可否決定後、システムから認定結果メールが送信される。</p>	<p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(追加)</p>
<p>コースディレクター FAQ (http://www.icls-web.com/direct/direct_faq.html)</p>		
<p>Q6：ICLSコースディレクター資格の更新の手続きは必要でしょうか？</p> <p><u>※2021年10月1日以降に認定更新するインストラクター(ディレクターを含む)については、上記に加えて認定更新料(2,000円(税別))が必要です。未払者に対しては更新月、更新翌月、更新翌々月の3回、インストラクター個人情報に登録されているメールアドレスに案内を送信しますので、会員専用ページから支払いの手続きをしてください(クレジットカードまたは銀行振込)。更新月の3カ月後の初日も支払いがない場合、会員専用ページがロックされますが、支払いの手続きが完了するとロックが解除されます。</u></p> <p><u>※なお、個人の更新期限日は、「ログイン」後、「個人情報変更」の下方部分に記載されております。</u></p> <p><u>※コース参加履歴は、コースディレクターから報告された参加者リストを元に、自動で行われます。参加履歴が確認できない場合には、別途メール等で確認を行うことがありますが、ご了承ください。</u></p> <p>Q7：ICLSコースディレクター更新のための開催コースはBLSコース</p>	<p>Q6：ICLSコースディレクター資格の更新の手続きは必要でしょうか？</p> <p>Q7：ICLSコースディレクター更新のための開催コースはBLSコース</p>	<p>(追加)</p>

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p>も適用されますか？</p> <p>また、<u>コース開催（ディレクター経験）</u>のみが更新要件回数として認められ、インストラクターとしての指導経験は回数に含まれませんので留意ください。</p> <p>Q9：ICLS コースディレクター資格の更新ができなかった場合、ICLS 指導者養成ワークショップディレクター資格も失ってしまうのですか？</p> <p>ICLS <u>コース</u>ディレクター資格の更新ができなかった場合は、ICLS 指導者養成ワークショップディレクター資格も失効されます。</p>	<p>も適用されますか？</p> <p>また、<u>コース開催（ディレクター経験）</u>のみが更新要件回数として認められ、インストラクター、<u>ファシリテーター</u>としての指導経験は回数に含まれませんので留意ください。</p> <p>Q9：ICLS コースディレクター資格の更新ができなかった場合、ICLS 指導者養成ワークショップディレクター資格も失ってしまうのですか？</p> <p>ICLS ディレクター資格の更新ができなかった場合は、ICLS 指導者養成ワークショップディレクター資格も失効されます。</p>	<p>(削除)</p> <p>(追加)</p>
<p>指導者養成ワークショップ ワークショップディレクター (http://www.icls-web.com/workshop/workshop_director.html)</p>		
<p>条件確認 ワークショップディレクター見習い</p> <p>ICLS コース認定ディレクターの資格を持ち、ICLS 指導者養成ワークショップ<u>認定 WS インストラクターである</u>者は、ICLS 指導者養成ワークショップ認定ディレクターのサポートのもとで、ワークショップディレクター見習いをすることができる。</p> <p>認定申請</p> <p>推薦者と<u>被推薦者</u>に、システムから申請受付メールが自動送信される。</p> <p>認定可否決定後、システムから認定結果メールが<u>推薦者と被推薦者に</u>自動送信される。</p>	<p>条件確認 ワークショップディレクター見習い</p> <p>ICLS コース認定ディレクターの資格を持ち、ICLS 指導者養成ワークショップ<u>認定 WS インストラクターである</u>者は、ICLS 指導者養成ワークショップ認定ディレクターのサポートのもとで、ワークショップディレクター見習いをすることができる。</p> <p>認定申請</p> <p>推薦者と<u>申請対象者と日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会の地区担当委員</u>に、システムから申請受付メールが自動送信される。</p> <p>認定可否決定後、システムから認定結果メールが自動送信される。</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更・削除)</p> <p>(追加)</p>

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
資料ダウンロード (http://www.icls-web.com/report/report_download.html)		
<p>様式1：院内心肺蘇生経過記録表（診療録用）</p> <p>コメント（バイタルサイン、心電図調律、<u>電気ショック</u>、薬剤投与など）</p> <p>例；8：24 VF再発に対し、2度目の<u>電気ショック。150J。電気ショック</u>、再び心静止。</p> <p>様式2：院内心肺蘇生報告書</p> <p>発生年月日 ____年__月__日</p> <p>生年月日 <u>T・S・H・R</u> ____年__月__日</p> <p>初期（第一発見者が急変と判断したとき）の状況 （枠外）最初は心停止ではなく、途中心停止へ移行した症例では、心停止移行後最初の調律を※に記載</p> <p>蘇生処置の状況 第一発見者による蘇生処置の有無 <input type="checkbox"/>1.あり（実施したものを全て選択） <input type="radio"/> <u>胸骨圧迫</u> <input type="radio"/> <u>電気ショック</u></p> <p>第一発見者に関する情報（1つ<u>ず</u>つ選択）</p>	<p>様式1：院内心肺蘇生経過記録表（診療録用）</p> <p>コメント（バイタルサイン、心電図調律、<u>除細動</u>、薬剤投与など）</p> <p>例；8：24 VF再発に対し、2度目の<u>除細動。300J。除細動後</u>、再び心静止。</p> <p>様式2：院内心肺蘇生報告書</p> <p>発生年月日 <u>平成</u> ____年__月__日</p> <p>生年月日 <u>M・T・S・H</u> ____年__月__日</p> <p>初期（第一発見者が急変と判断したとき）の状況 （枠外）最初は心停止<u>し</u>ではなく、途中心停止へ移行した症例では、心停止移行後最初の調律を※に記載</p> <p>蘇生処置の状況 第一発見者による蘇生処置の有無 <input type="checkbox"/>1.あり（実施したものを全て選択） <input type="radio"/> <u>胸部圧迫</u> <input type="radio"/> <u>除細動</u></p> <p>第一発見者に関する情報（1つ<u>づ</u>つ選択）</p>	<p></p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

2023年4月21日ホームページ文言修正にかかる新旧対照表

新	旧	備考
<p>AED 使用の有無 ありの場合、使用者に関する情報（1つずつ選択） <input type="checkbox"/>3.<u>メディカルスタッフ</u>（ ）</p> <p>CPR 中止 CPR 中止理由（1つ選択） <input type="checkbox"/>1.<u>自己心拍再開</u> <input type="checkbox"/>3.<u>DNAR</u></p> <p>時間経過（分） 虚脱から <u>電気ショック</u> 虚脱から <u>気管挿管</u></p> <p>転帰 <u>自己</u>心拍再開の有無</p>	<p>AED 使用の有無 ありの場合、使用者に関する情報（1つずつ選択） <input type="checkbox"/>3.<u>コメディカル</u>（ ）</p> <p>CPR 中止 CPR 中止理由（1つ選択） <input type="checkbox"/>1.<u>心拍停止</u> <input type="checkbox"/>3.<u>無効</u> <input type="checkbox"/>4.<u>DNAR</u></p> <p>時間経過（分） 虚脱から <u>除細動</u> 虚脱から <u>挿管</u></p> <p>転帰 心拍再開の有無</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更) (変更) (削除)</p> <p>(変更) (変更)</p> <p>(追加)</p>
<p>リンク集 (https://www.icls-web.com/report/report_link.html) <u>→このページは削除いたしました。</u></p>		(削除)